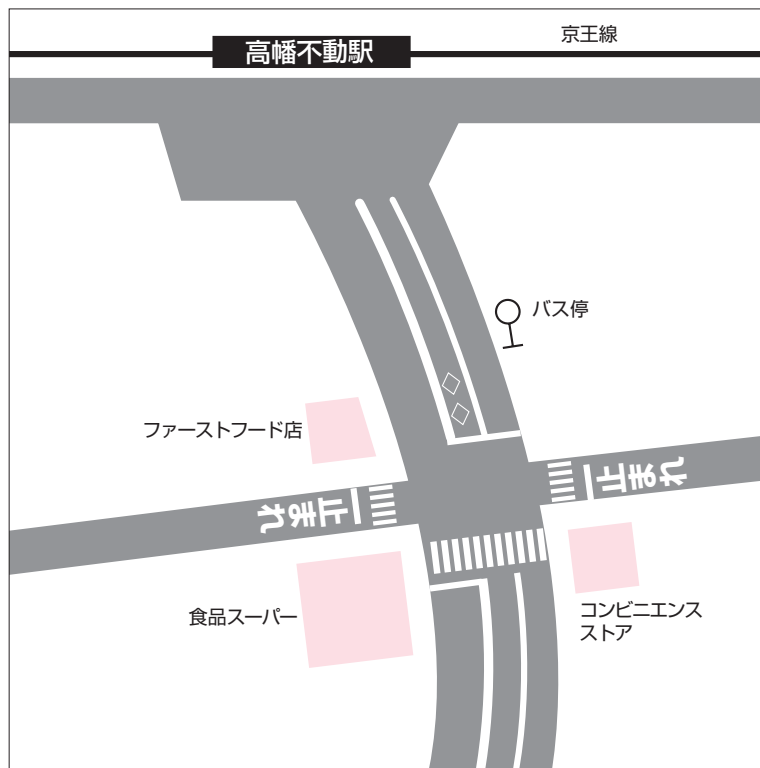


Q1

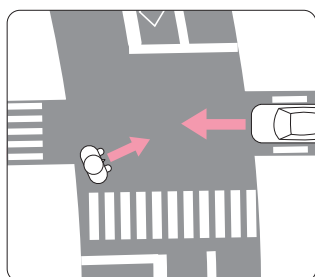
高齢歩行者138人中、左右の安全確認をしなかったのは何人でしょうか？



- 観察場所 / 東京都日野市高幡付近
- 観察日 / 2006年12月5日（火曜日）
- 観察時間 / 16:15～17:15

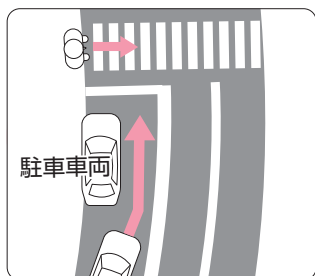


横断の途中で左右確認を行う人も見られた



Q2

横断歩道以外を渡る危険な歩行者を目撃！ 事故を防ぐには、どんなことが必要でしょうか？



Q3

横断歩道付近に駐車車両を目撃！ どうして駐車車両があると危険なのでしょう？

高齢者の横断歩道横断中の死傷者が目立つ

平成17年の高齢歩行者事故を見ると、横断歩道以外で横断中の死傷者の割合が27.7%と最も高いが、横断歩道横断中の死傷者も27.3%と高くなっている。全歩行者の横断歩道横断中の死傷者は、25.7%で、この構成率と比べても、高齢者の横断中の死傷者が目立つ。

（財）交通事故総合分析センター資料

こんな事故が
起きています

道路交通法

横断の方法

（法12条第1項抜粋）

歩行者は、横断歩道がある場所の付近では、その横断歩道によって横断しなければならない。



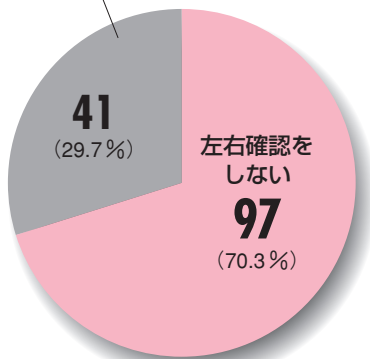
……実際に観察しました

Q1
の解答

97人 (70.3%)

●信号機のない横断歩道を渡る高齢歩行者の左右確認状況 (138人中)

左右確認をした



●信号機のない交差点での歩行者の左右確認状況

	左右確認をした	片側のみ確認した	左右確認をしない	小計
小学生以下	5	7	33	45
中学生・高校生	15	9	37	61
成人	152	128	321	601
高齢者	41	54	43	138
小計	213 (25.2%)	198 (23.4%)	434 (51.4%)	845

※小学生以下(12歳以下)、中学生・高校生(13~18歳)、成人(19~64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は、観察者の見解による

1時間の観察で、この交差点の横断歩道を渡った歩行者は845人。このうち65歳以上と思われる高齢者は計138人(男性62人、女性76人)。横断歩道を渡る際に左右確認を行った高齢歩行者は41人(29.7%)、片側のみ確認が54人(39.1%)、左右確認を行わなかった人は43人(31.2%)だった。

左右確認を行う高齢者は、目線の動きだけでなく、顔を大きく動かして左右を何度も確認していた。しかし、横断を始めると、足元を気にして目線が下を向いた状態で歩く人が見られた。



高齢者は足元を気にして目線が下向きになりやすい

CLOSE UP

高齢者に限らず左右確認をしない人が多い

高齢歩行者以外にも、左右確認をまったく行わない人が観察された。特に、道幅の狭い道路を横断する人は、左右確認を行わない人がほとんどだった。集団や2人連れで横断する際には、後方を歩く人はまったく左右の確認を行わない例が目立った。

Q2
の解答

歩行者は斜め横断はしない

【解説】ドライバーは、横断歩道を渡ろうとする歩行者に注意し走行している。斜め横断をする歩行者は、ドライバーの予想外の場所にいる可能性もあり危険である。

ここがポイント

- 歩行者は横断歩道が付近にある場合は、横断歩道を渡る
- ドライバーは歩行者の動きに注意して走行する

Q3
の解答

駐車車両が死角となり、ドライバーが横断する歩行者を発見するのが遅れる

【解説】歩行者にとっても、駐車車両があると、走行するクルマの様が見えにくい。歩行者が駐車車両の陰から飛び出し、事故にあう可能性もある。

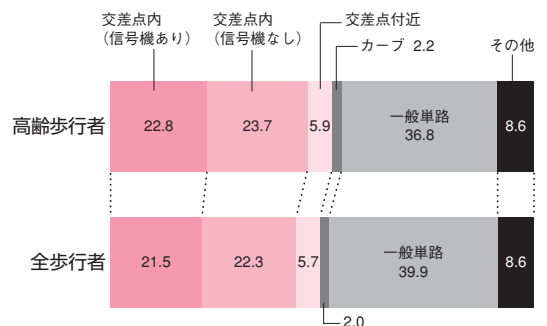
ここがポイント

- 横断歩道や交差点の側端から前後5m以内には駐車しない

ワンポイント DATA

高齢歩行者は全歩行者に比べて交差点内での死傷者の割合が高い

高齢歩行者の道路形状別 死傷者数 (構成率)



平成17年の高齢歩行者の交通事故をみると、46.5%が交差点内で死傷しており、この構成率は、全歩行者に比べると高くなっている。特に、信号機のない交差点での事故死傷者が目立つ。反対に一般単路での死傷者の構成率は36.8%と、全歩行者に比べて低くなっている。

(財)交通事故総合分析センター資料)